

第231回 番組審議会

1. 日 時 平成26年4月8日 (火) 12:00～
2. 場 所 メトロポリタン盛岡NEW WING 3F「星雲 東の間」
3. 委 員 委員総数 11名
出席委員数 9名 (欠席委員数 2名)

○ 出席委員 (敬称略)

中村 慶久 (委員長)
竹中 陽一 (副委員長)
—以下50音順—
石田 征広
加藤 裕一
木戸場 美代子
菅原 正二
八木橋 伸之
役重 真喜子
吉田 浩次

○会社側出席者 (7名)

佐藤 滋樹 (代表取締役社長)
小原 忍 (専務取締役)
前田 秀男 (取締役技術局長)
藤原 銀司 (取締役営業局長)
工藤 浩 (取締役総務局長)
菊地 十郎 (岩手めんこいテレビ報道部部长)
藤堂 光隆 (岩手めんこいテレビ報道部主任)

○ 事務局 佐々木 久仁子

4. 議 題 『mit報道特別番組 響け！復興の槌音

～あの日から3年 浜からの報告～』

平成26年3月8日(土)15:00～15:55 放送

5. 議事概要

今回は3月8日(土)放送した『mit報道特別番組 響け！復興の槌音～あの日から3年 浜からの報告～』を審議しました。議事の概要は、以下の通りです。

●岩手めんこいテレビ 菊地プロデューサーからの説明

- ・今回は震災から“3年”をどのように表現するかを一番考えた。3年という時間を「見て判る」ようにと瓦礫の処理率といった数字や表情の変化など映像にこだわった。また被災地の現在の空気感を伝えたいと宮古と大船渡から生中継を行った。
- ・震災直後取材させて頂いた方に連絡を取った。快く応じてくださる方、「もう勘弁してくれ」という方、亡くなられた方、仲が良かった家族が離れ離れになっていたり、それぞれの“3年”が見えていたたまれないこともあった。問題点を明らかにするべきところも必要であったが、今後「mitスーパーニュース」の中で紹介していく予定である。

●岩手めんこいテレビ藤堂ディレクターからの説明

- ・区切りのいい節目として「3年」という言葉を使いがちだが、沿岸支局から「節目ではない継続中だ」という意見があり、震災直後取材した方たちの今を取材することにした。震災前の映像も活かしながら“3年”を表現した。また、人物だけではなく瓦礫が取り除かれ、山が削られていく、今しか撮影できない映像も記録として残していこうという思いも込めた。

●出席した委員からの意見

- ・網羅的ではあるが、ひとつひとつが判りやすく、まとまりのある見飽きない内容だった。

- ・おひとり、おひとりに物語があつて、いろいろな課題に向き合いながら生きていかれるだろうと感じた記憶に残る番組だった。
- ・冒頭に津波の映像を入れたことは、視聴者に「忘れるな」と訴える意味では説得力があり良いのではないか。このような番組を折に触れ放送して忘れないようにするのは、とても大事なことだと思う。
- ・スタジオ、中継先のアナウンサーが、真摯に真面目に伝えようとする姿に好感が持てた。
- ・それぞれから味のある言葉を引き出していた。そこから問題提起できるようなえぐり方をしてもよかつたのではないか。
- ・防潮堤、震災遺構など大きなテーマについては、もっと掘り下げたほうが良かつた。
- ・被災者に寄り添うだけでなく、被災者の言えないことを代弁するのもメディアの役割。復興に関して検証と提言を続けてほしい。
- ・「復興の槌音」も5回目。現状を訴えるばかりでなく、その先を見据えた取り上げ方も必要。震災からどうやって復興していくか前向きな作り方も検討してはどうか。

6. 審議機関の答申又は改善意見に対してとつた措置
特になし

7. 審議機関の答申意見概要を公表した場合におけるその公表内容、方法及び年月日

- * 平成26年4月9日（水） 産経新聞 東北版
- * 平成26年4月19日（土）午前4時から4時15分まで「めんこいテレビ 番組批評」として放送
- * 据え置き書類を作成し、本社受付に置き一般の人々が自由に閲覧できるようにした

8. その他の参考事項

特になし